

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

9月1日 (No.47・猛暑の後は…?号)

2007
*
9月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



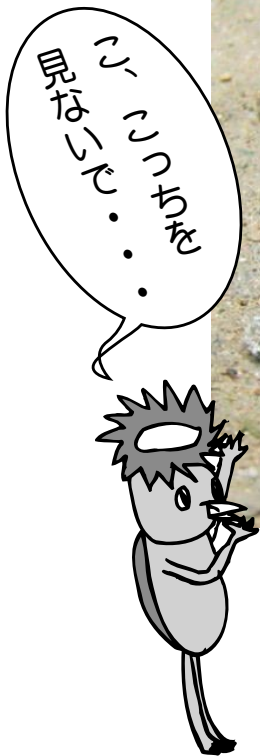
写真：天田 眞

勝手にレッドデータ of 志木 (33)

ヒバカリ

志木に生息しているヘビ類はそれほど多くは無い。殆んどがアオダイショウで他にヒバカリ、シマヘビ、ヤマカガシといったところか。古い記録にマムシがいたとの話がでているが、多分今はいないだろう。この内、シマヘビ以外は何らかの形で埼玉県のレッドデータリストに載っている。最もランクが高いのは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されているヒバカリだが、このヘビは成長しても60cm位でおとなしく毒は無い。西原斜面林で確認しているが、ここは区画整理工事で大幅に伐採や地形改変されており絶滅が心配される。

(天田 眞)



身近な川の一斉調査 2007

新河岸川水系身近な川の一斉調査 身近な水環境の全国一斉調査

07年6月3日(日) 9:00~12:30

主催：新河岸川水系水環境連絡会
全国水環境マップ実行委員会

NPO 法人エコシティ志木

協力参加：志木市立宗岡中学校科学部

参加者：17名

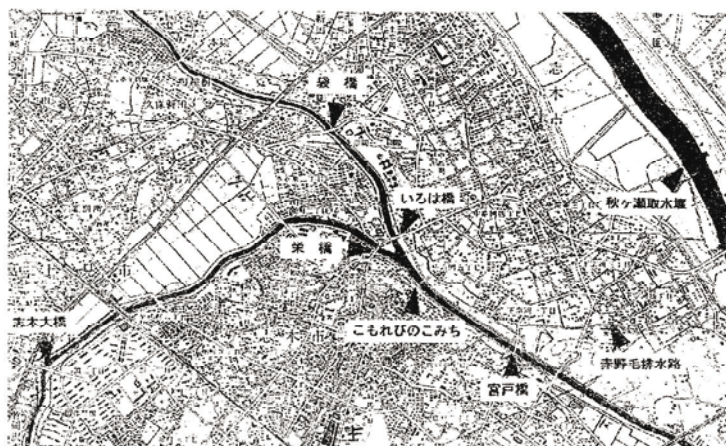
新河岸川水系では毎年約50団体で約250カ所の水を調査しています。当会が志木で調査を開始してから12年目、全国調査としては4年目になりました。例年のように宗岡中学校科学部と共に、志木市内8カ所の水を採取し、宗岡中学校理科室で測定しました。

主要な測定結果は下記の表の通りで、概ね例年と似た傾向でしたが、ECが殆んどの地点で過去5年間の最高値になりました。今年から測定器具を新しくしたことに関係あるかもしれません。また、赤野毛排水路の水温が異常に低かったのは、どこかで大量の地下水が流入していた可能性が考えられます。

■ 主な測定項目は以下の通りですが、この他に気温、水温、亜硝酸性窒素($\text{NO}_2\text{-N}$)、アンモニア性窒素($\text{NH}_4\text{-N}$)も測定しています。

- pH(水素イオン濃度)：7が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。パックテストで測定。
- EC(電気伝導度)：水中の無機イオンの量。数値が高いと不純物が多いが、必ずしも不純物=汚れというわけではない。伝導度計で測定。
- COD(化学的酸素消費量)：測定水に酸化剤を加えて有機物を酸化する時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物による汚れが多い。パックテストで測定。似た指標にBOD(生物化学的酸素消費量)があるが、これは微生物により分解されやすい有機物量を表す。
- 透視度：透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。数人で測定し平均値を求める。

(天田 眞)



8ヶ所の採水地点



栄橋での採水の様子

■ 2007年の主な測定結果と過去5年間(2003~2007)の平均値

採水地点		測定項目		水温(℃)		pH		EC($\mu\text{S/cm}$)		COD(mgO/L)		透視度(cm)	
				07年	平均	07年	平均	07年	平均	07年	平均	07年	平均
柳瀬川	志木大橋			22.0	23.2	7.0	7.3	430	361.0	12	9.0	120.0	91.0
	栄橋			24.0		7.0		410		8		99.8	
新河岸川(上流)	袋橋			20.0	19.7	7.0	7.1	270	289.0	4	4.0	24.8	27.7
	いろは橋			20.0		7.0		350		4		26.0	
新河岸川(下流)	宮戸橋			21.0	21.2	7.5	7.5	370	328.0	4	7.6	41.2	41.4
荒川	秋ヶ瀬取水堰			21.0	20.1	7.5	7.9	200	184.2	2	2.4	73.0	62.6
こもれびのこみち湧水				17.0	17.2	6.5	6.7	250	239.4	2	1.6	>130	118.2
赤野毛排水路				16.0	20.1	7.0	8.0	440	368.0	4	7.0	23.3	50.3

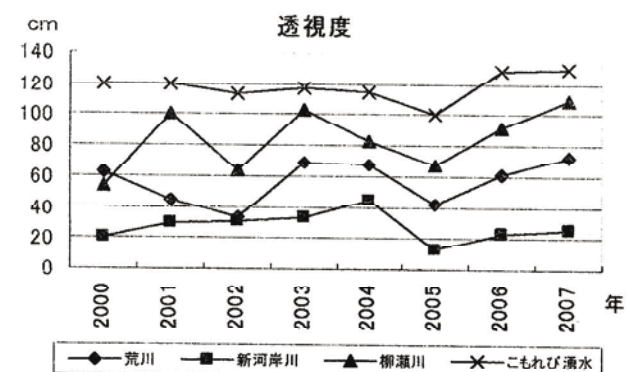
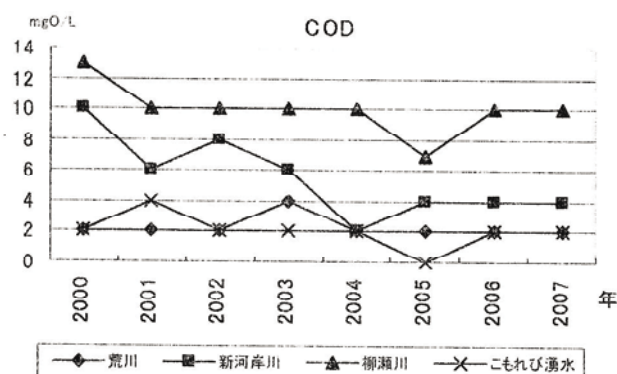
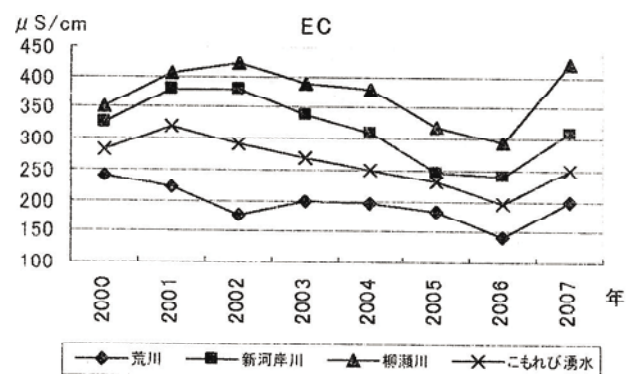
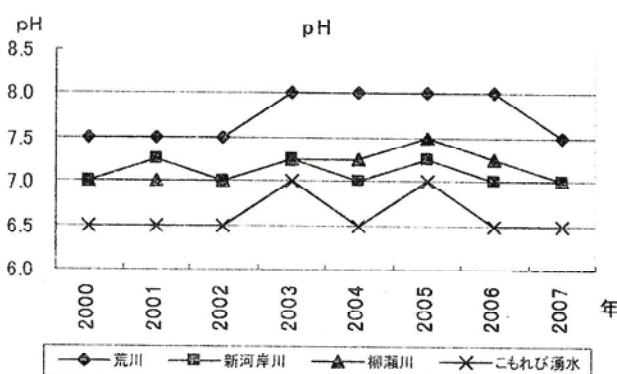
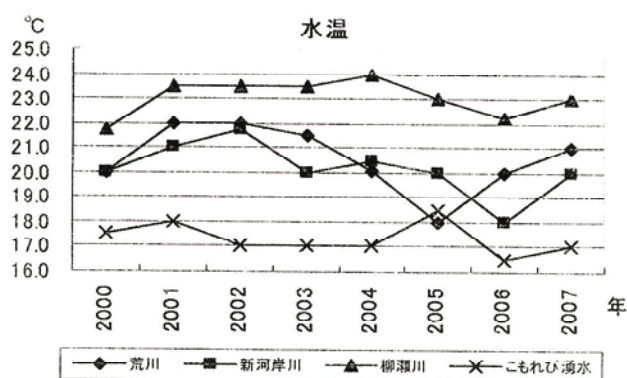
※ 各測定項目の右欄に過去5年間の平均値を記入しました。柳瀬川・新河岸川の合流点より上流の各2カ所は合わせた平均値としました。

■ 過去5年間の結果から見る水質の特徴

柳瀬川 【志木大橋・栄橋】	透視度は非常に高いが、COD が最高、EC もかなり高く、見かけほど水質が良いとはいえない。水温が高いのは下水処理水の割合が高い（平常時6割以上）ため。河床は砂礫、流量は多く、流速は早く、低水路に砂礫の堆積が目立つが細かき沈殿物は少ない。
新河岸川（柳瀬川合流前） 【袋橋・いろは橋】	透視度は最低だが、COD、EC は柳瀬川より低く、見かけほど水質が悪いとはいえない。河床は泥質。柳瀬川に比べ流量は少なく、流速は遅く、砂泥やごみの堆積が多いが、07年初めより6月まで袋橋・いろは橋間で河床掘削を行った。
新河岸川【宮戸橋】	概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の間の数値を示す。
荒 川 【秋が瀬取水堰上流側】	EC は最低、COD も非常に低く水質は良いが、透視度はそれほど高くない。わずかにアルカリ性。東京都・埼玉県の水道原水で利根川から導水された水が大半を占める。
こもれびのこみち湧水	透視度は最高、COD は最低で非常に水質が良い。EC がそれほど低くないこと、水温が低い（年間一定）こと、わずかに酸性気味なことは湧水の特徴。
赤野毛排水路	EC が最高で COD も高く水質は悪い。アルカリ性。平均では分からないが年により数値のばらつきが多い。雨水、農業排水、雑排水等、様々な水が混ざっていると思われる。

※ 埼玉県による BOD 測定の過去5年間（2001～2005）平均は、栄橋 2.94、いろは橋 3.78 で、柳瀬川の方が良い結果になっている。

■ 河川と湧水の経年変化（柳瀬川は志木大橋と栄橋、新河岸川は袋橋といろは橋の平均値）



小学校の授業等への協力（講師派遣）は当会の活動の中でも大きな割合を占めるようになっていきます。今年度1学期はプールのヤゴ救出作戦や柳瀬川での自然学習等で5回行われました。これらは平日実施のため講師の確保が課題です。

◆プールのヤゴ救出作戦

5月18日 志木第二小学校 2年131名

6月5日 志木小学校 1年120名

冬の間水を張っているプールにはヤゴ等の生き物が生息していますが、プール開き前の清掃で流されてしまいます。このヤゴを救い出しトンボにしてあげようというプログラムです。当会の提案により志木市で始まってから10年目になった今年は2校に出かけました。紙芝居等でトンボの生態や飼育方法の説明を行った後、ヤゴの救出にかかります。プールの底にたまった腐りかけの落葉やヘドロを網ですくうと、餌のアカムシ等とともに

にヤゴが捕まります。事前に水を適当な水位まで抜いておいてもらいますが、これがなかなか難しいのか抜きすぎて空になってしまったプールもありました。それでも残った落葉の中にはヤゴが隠れていました。プールにいるヤゴは殆んどが赤とんぼ系で、秋に産卵、春に孵化し、6月中旬頃にトンボになります。救出したヤゴは各自が家に持ち帰りトンボになるまで育てますが、さて、何割くらいがトンボになれたのでしょうか。



↑プールのヤゴ救出作戦



↑柳瀬川での自然学習

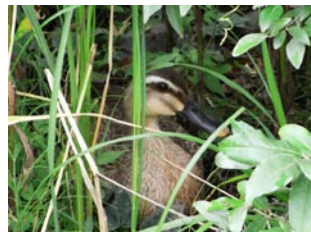
◆柳瀬川での自然学習（総合的学習）

6月21日 志木第三小学校 3年生88名

7月9日 志木小学校 5年生111名

柳瀬川の河川敷や隣接の水谷田んぼ付近を利用した自然環境学習で両校とも6年目になります。学校により多少の違いはありますが、始めは現場で様々な自然に触れ、その中から各自が学習テーマを決め、図書やホームページ等による調べや現地での再度の観察等を経て成果をまとめるといった学習です。

今回は今年度初めての現場学習で、クラスごとに川と水生生物（魚とり体験）、野鳥、植物の3つのテーマを順に体験しました。魚とりは初めてという児童が多く、時間を忘れて楽しんでいました。年毎に釣り人が多くなっていますが、釣り人を避けての魚とりの場所の確保が難しくなってきました。



↑屋上ビオトープのカルガモ

◆志木小学校2年生活科 「生き物をかおう」

6月26日 2年4・5組56名

「生き物の飼育を通じて様々なことに気づき、それを各自の表現で友だちに伝える」という9時間の学習プログラムのうちの1時間を手伝いました。

◆志木小学校 エコクラブ

5月～7月に4回 4～6年生18名

志木小のクラブの講師は今年で6年目になります。いきいきタイムの名称だった初期の頃は時間が90分あり、川や斜面林へ出かけたりしましたが、今は45分しかなく殆んど校外に出かけられ

ないのが残念です。

今年の1学期は屋上ビオトープでのカルガモの子育て観察やセイタカアワダチソウの抜き取り、学校周辺のごみ拾い等を行いました。

7/27(金)



8/18(土)

カップパふれあい展に出前水族館を出展

志木ニュータウンのペアモール商店街で開催された「カップパふれあい展」に柳瀬川で捕れた魚やエビたちを出前水族館として展示しました。この催しは商店街の空き店舗対策事業として志木市商工会が市内各所で開催しているもので、志木二小・志木四小児童の絵画展示や演奏・歌声・奇術等のミニライブ、市内サークルの作品展示販売等がありました。

出前水族館としては異例の3週間の長さに空前の暑さが重なる悪条件で、途中で何度か魚を入替えての展示でした。(天田 眞)



毎月第3日曜日
午前

柳瀬川の水生生物調査



サホコカゲロウ

昨年度までは、志木中学校前の柳瀬川で毎月1回、魚類等の水生生物を捕獲調査し、「柳瀬川水族館」として展示し、市民に生き物の戻ってきた柳瀬川の原状をお知らせしてきました。今期は諸般の事情により展示は取りやめていますが、従来の魚類等の調査に加え底生生物（川底に棲む小動物）や水質（COD、EC等）の調査も定例化しました。

底生生物は川底に浮石（砂に埋もれていない石）があり、浅瀬で流れが速く表面が



ナミウズムシ（プラナリア）

波立っているような所の石の裏などで多く見つかります。カゲロウやトビケラ類のような昆虫の幼虫、ダンゴムシに似たミズムシ（節足動物）、石裏に張り付いて激しく伸縮し動き回るシマイシビル（環形動物）、伸び縮みする小さなナメクジのようなナミウズムシ（扁形動物）、ハサミがない小さなエビのようなヨコエビ類（節足動物）等、殆んどが1cm以下のような小さな生き物ですが、河川の水質を判定する指標にもなっています。(天田 眞)

明治43年の水害

志木まるごと博物館 河童のつづら担当

毛利 将範

当時の浸水の範囲を示す図
（荒川上流河川事務所ホームページより）



「志木のイメージとして『川のまち志木』がふさわしいと思う人、いらっしゃいますか？」

先日、志木市の歴史と自然に興味がある30名ばかりの人が集まる公開講座で質問する機会がありました。確かに志木市域には、荒川流域に属する荒川・新河岸川・柳瀬川の3本の川が流れています。また、平成11年（1999）に策定された志木市環境基本計画でも、その目指す環境像を「人とひとが織りなす、川のまち志木」と謳っています。はたして志木は「川のまち」なのでしょうか。

古来より人間の暮らしに大きく関わり恵みを与えてきたのが川です。沖積平野に位置する志木市・宗岡地区にも、古くから人が住み、水田耕作を中心に集落を形成してきました。水を得やすく、そして定期的に発生する洪水流は上流から耕作に必要な肥えた土を供給し、耕作しやすく、舟運の利用が容易であり、人の住み得る条件が整っていたのです。

しかし「母なる川」は一方で、たびたび氾濫を繰り返えし、人々の暮らしを脅かす「荒ぶる川」でもありました。鎌倉時代前期、京都にいた鴨長明が『発心集』に「武州入間河沈水の事」として建暦2年（1212）の入間川での洪水の恐ろしさをリアルに記述しています。この地域でも古くから人々は川の恵みを受け集落を形成するとともに、その脅威に対峙して川とのつきあい方の文化を築いてきたことが窺えます。

明治以降では、5大洪水の一つとされ、荒川筋でも特に大きな被害がでた明治43年（1910）

の大洪水が有名です。それは、それまでの溢れることを前提にした治水から、連続堤防を築き洪水流を川に閉じこめ、川を直線化していち早く海に流す治水に大きく方針転換をするきっかけとなる水害でもありました。

この洪水は、利根川の洪水と合わせて埼玉県内の平野部全域を浸水させ、東京下町にも甚大な被害をもたらしました。その記録は『明治四十三年埼玉県水害誌』、『宗岡村郷土誌』（1913宗岡小学校）や、古老からの聞き取りをおこなった『水害と志木』（1986志木市）などに詳しく記述されています。

それらによると、埼玉県内での被害は、堤防決壊314ヶ所、死傷者401人、住宅の全半壊・破損・流失18,147戸、非住宅10,547戸、農産物の損害は現在の資産価値で1,000億円にものぼりました。県西部や北部に人的被害が多く、床上浸水被害が県南や東部低地に多かったのが特徴とされています。

当時の宗岡村の被害は、全村230町歩米作無収穫、150町歩の秋作全部腐敗。家屋の流出33戸、倒壊、住宅48棟、納屋46棟。その他貯蔵穀類、玄米1000俵（450石）、大麦2000俵（1000石）などという記録が『宗岡村郷土誌』にみえます。

8月2日より細雨あり、連日で9日に至り漸次烈しくなり、10日にはついに暴風雨となり…、

12日に川越西北部で破堤があり、さらに南畑びん沼の破堤にいたり、みるみる増水しついには床上5尺（約1.5m）を越える。人々は「タナギ」に上がり屋上によじのぼり避難したことが記されています。また、屋根を破って救出されたり、流される屋根の上から助けを呼ぶ人もあったといわれます。

降雨は166日間も続きついには志木市本町1丁目（市場坂下：標高約10m）より浦和市（現さいたま市）別所方面まで一面湖水と化し、宗岡全土が水没し、その水位は天井まで達しました。

水塚など、明治43年当時の建物が今でも残されており、それらの壁などに当時の水の痕跡が残されています。『水害と志木』では、それらを詳細に調べて当時の洪水の水位を割り出しています。

それによると、水の痕跡が残されていたのは4軒で、その洪水位の標高は、川や堤防からの距離により一定でなく、7.995mから9.185mとなっていますが、最終的には民家の障子に残されていた水の痕跡をもとに、当時の最高水位を8.195mであったとしています。

この記録は、現在宗岡小学校に隣接する志木市郷土資料館の敷地にモニュメントとして表示してあります（写真）。

宗岡の水田の平均標高は4mから5m。宅地はそれより約1m高く、水塚はさらに約1.5m土盛りされています。つまり、水塚の土盛りの頂までの標高は6.5mから7.5mで、それより高い洪水が押し寄せたこととなります。また、当時の荒川・新河岸川の堤防は、田面より2m位の高さといわれていますので、洪水は堤防の上を1mから2m以上越していたこととなります。

かつてない大洪水に、明治政府は「臨時治水調査会」を設け、抜本的な治水計画にのり出しました。

これにより荒川や新河岸川では、川を直線化し洪水流をいち早く海に流す改修工事が始まりました。それは今までの溢れることを前提にした治水から大きく方針を転換するものです。

明治時代に西欧から導入された土木技術は、大がかりな河川改修を可能としていました。加えてこのころ、流域の生産活動、人口密度の増



郷土資料館にある、洪水の最高水位表示

加が促進され、特にかつての氾濫原である平野部へ資産が集中し、それらの土地・財産を守る必要性から、一時的にせよ水を溢れさせることは次第に許されなくなってきました。

このように、人々の治水に対する考え方が変化してきたのですが、それに決定的な影響を与えた事件のひとつが、明治43年（1910）の大水害であったといえます。

荒川下流部では、岩淵水門から下流に、隅田川（当時の荒川）と分派する約21kmの放水路が開削されました。上流部の洪水流の勢いを和らげるための「横堤」や広大な河川敷は、この時の改修工事によって生まれたものです。

ところで、冒頭の質問への答えですが、「川のまち志木」のイメージがふさわしいと答えた人は、30名中2名の方でした。

川から恵みを受け、川の脅威に対峙して様々な文化を育んできた地域の来し方を思うと少し寂しい気もします。先人のたゆまない努力により、今日では破堤による浸水はほとんどなくなりました。川の恵みも恐ろしさも日常では忘れて、それが現代人の生活の現実であるともいえます。

【参考文献】

『水害と志木』1988 志木市

『志木市郷土誌』1978 志木市

「荒川下流域水塚郡の研究」2004 毛利

国土交通省荒川上流河川事務所ホームページ

<http://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/>

ARA <http://www.ara.go.jp/>

6/16
(土)7/17
(火)8/4
(土)

大型外来植物駆除作戦

6月から8月にかけて3回にわたって大型外来植物のオオブタクサとアレチウリの抜き取りを行いました。

1回目は6月16日(土)に生育状況等の調査を兼ねて柳瀬川鉄橋から志木大橋近くまで行いました。参加者は5名でしたが、ニュータウン前でオオブタクサやアレチウリが勢力を増しているのが分りました。

2回目は7月17日(火)志木中学校の生徒さん達による、ボランティア活動として行いま



した。午後3時からの活動には約130名強の生徒さんが参加し、志木中学校前から、富士見橋、柳瀬川鉄橋にかけて抜き取りを行いました。活動終了後にはPTA5名の方たちの協力を得て、冷たい飲み物を振舞いました。

3回目は8月4日(土)の猛烈な暑さの中で実施しました。参加者は7名でしたが、宗岡在住の方が草刈機を持参されましたので、強力な助っ人になりました。この時期になると、オオブタクサは高さ3メートルにもなり、アレチウリはとても取りきれないほどに繁茂していました。来年は実施時期にもう少し工夫をする必要がありそうです。

オオブタクサは、風媒花のため昆虫も寄らず、8月から9月にかけて大量の花粉を飛ばし、秋の花粉症の原因となっています。また、アレチウリは地面全体を覆って、他の植物が日陰になって育たないため、特定外来生物に関する法律で駆除すべき対象として指定されています。

(山崎光久)

参加して
きました

荒川流域水環境シンポジウム実行委員会主催

第8回「荒川流域水環境シンポジウム～人の営みと荒川の今～」

7月28日(土) シンポジウム(於 東京国際大学)

7月29日(日) 荒川中流域～下流域見学会

先月、東京国際大学での「第8回荒川流域水環境シンポジウム」及び「中流域見学会」に参加しました。基調講演は、法政大学非常勤講師の神谷博氏が「荒川と『古東京川』～東京水圏の歴史とこれから～」をテーマに、古代から今にかけての気温や海水面の上昇など「エコヒストリー」について話されました。分科会は「荒川流域のゴミ問題」、「魚の行き交う川作り」、「源流の森を生かす流域経営」があり、私は「ゴミ問題」に参加しました。昭和63年の河川改修工事で確認された悪臭を伴う産業廃棄物は、平成6年の試験掘削の際の含有量試験でP C B

(ポリ塩化ビニール)が検出され、有機溶剤が含まれていたことが判明し、脱有機溶剤試験工事が行われています。掘削物は現在、JR武蔵野線と新河岸川が交差する辺りの仮置き場に保管され、環境モニタリングや臭気対策ハウス等の対策がとられているとのことです。総括と質疑応答のあと散会。宿泊組は森林公園資料館へ移動し、夜は「みずかけ“サ”論」(交流会)でした。翌朝、①自然再生予定地、②六堰頭首工・玉淀ダムの2コースに分かれて見学。最寄駅から帰路に着きました。(三浦真奈子)

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email : qwj11624@nifty.com(毛利) へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html>

《鳥類》

アマサギ (1) →7/9 (月) 水谷田んぼ なんと水谷たんぼの木の上に止まったのです【山崎光久】

バン (親鳥1と幼鳥5) →8/14 (火) 水谷田んぼ 暑い中を水谷たんぼを散歩しました【山崎光久】

ゴイサギ (幼鳥1) →8/14 (火) 水谷田んぼ【山崎光久】

カワセミ (1) →8/14 (火) 水谷田んぼ【山崎光久】

キジの (♀親鳥1と幼鳥3) →8/14 (火) 水谷田んぼ【山崎光久】

セッカ (2) →8/14 (火) 水谷田んぼ【山崎光久】

チョウゲンボウ (1) →8/14 (火) 水谷田んぼ【山崎光久】

《昆虫》

アブラゼミ (声) →7/17 (火) 朝霞市西原 (北朝霞公園) 【毛利将範】

クマゼミ (声) →8/19 (日) 水谷田んぼ【毛利将範】

《ほ乳類》

タヌキ (1) →6/17 (日) 旧柳瀬川【毛利将範】



↑バンの若鳥 8/14 (山崎)



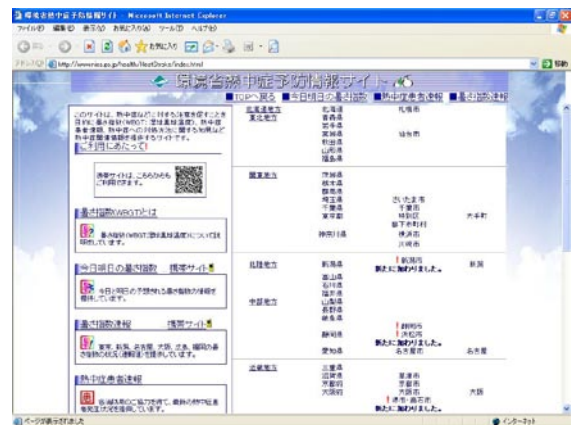
↑ゴイサギの若鳥 8/14(山崎)

環境 ひとくちメモ(6) 伊藤 智明

熱中症の予防対策について

今年の夏はヒートアイランド現象や地球温暖化による影響か、熱中症で死者が出るほどの恐ろしい猛暑となりました。

環境省の以下のホームページには、「熱中症は正しい知識があれば予防することができます。熱中症保健指導マニュアルでは熱中症についての新しい科学的知見や関連情報を紹介しています。あわせて、環境省では、ホームページでダウンロードできる、熱中症予防普及啓発ポスターを作成しました。また、熱中症の予防を図るため、暑さ指数(WBGT)の予測、及び速報値の情報提供を行っています。」とあり、いろいろな予防対策が掲載されています。



環境省ホームページ 「熱中症や紫外線にご注意ください」

<http://www.env.go.jp/chemi/info/heat-uv.html>

(画像は、上記ホームページ内にある「環境省熱中症予防情報サイト」です)

☆会員状況

2007年度分更新済みの正会員は、
個人57、団体2、賛助2です。

■新入会員

細田早苗（賛助会員）さん

■カンパありがとうございました

須貝郁子さん

竹内重利さん

石川和子さん

木村優子さん

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2007年度分、更新
まだの方は継続をよ
ろしく願います。

★宛名シールに会費の有効期間が
書いてあります。チェックしてく
ださい。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会

グループぼんぼこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木おやこ劇場

志木市コミュニティー協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川流域川づくり連絡会（国土
交通省）

新河岸川流域川づくり懇談会（埼玉県）

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

7/28（土） 竹の子エコクラブ「柳瀬川へ行こう」



当会が毎年夏に協力している三芳町竹間沢公民館”竹の子エコクラブ”のイベントです。川石の裏の生き物調べ・川渡り・草むらでの魚捕り（魚調べ）の3つのプログラムが中心のイベントで、約50名が集まりました。

生き物調べは、場所を変えたおかげか、例年以上の種類が捕れました。特にウズムシ（プラナリア）には、「教科書で習った」と昔子どもだったスタッフは興味津々でした。

川渡りは、大人でもヒザぐらいまである深さもある所を渡る、本気のハラハラドキドキが出来る貴重な体験となりましたが、何とかみんな無事に渡ることが出来ました。

魚捕りは、川の中の草むらで、空間があまりなかったため、みんな苦労していましたがウキゴリなど何とかとれました。

普段なかなか調べる機会のない志木大橋周辺の川の生き物を調べることができるので、とても楽しいイベントです。ただ、川はみんなの共有空間という意識が弱く、自分たちだけの空間という独占欲の強い人たちも多くいるため、そうした方々との交渉や関係が川での行うイベントにおける今後の課題と思います。（伊藤智明）

＜この日捕れた魚など＞

コイ、フナ、マハゼ、ウキゴリ、ヌマチチブ、モツゴ、グッピー、ドジョウ、ヌカエビ、アメリカザリガニ、コオニヤンマのヤゴ、ハグロトンボのヤゴ、アメンボ、サカマキガイ など



昔『ふるさと写真集』より（大正10年頃撮影）



昔

今『毛利将範』（平成19年8月14日撮影）



今

大正10年ごろの宗岡一里塚

一里塚の老エノキが倒れたという話を聞いたのは4、5年も前のことだろうか。改めて今回その場所に行ってみると以前の面影はすっかり消え、ご覧の写真のように、わずかに記念碑が残るただの町中の交差点になってしまいました。

しかし、『志木市郷土誌』（昭和53年）によると、文化文政年間（1804～1830）に編述された『新編武蔵風土記稿』に「ここに少しうずたかき塚あり。上に榎一株立てり」と記されてあるといい、幕末のころまではまだ塚があったことが分かります。一里塚は、江戸に幕府を構えた徳川家康が、江戸を中心とする交通網の整備のために設置されたもので、江戸日本橋を起点として、1里（36町、約4km）ごとに約9m平方の塚を道の両側に築き、その上に松やエノキを植えたといいます。

下の写真の向かって左手に延びるのが当時の旧奥州街道で、荒川を超えて奥州と関東を結んでいた主要道です。（毛利将範）

〈志木〉
野鳥のいる
風景
2

毛利 将範

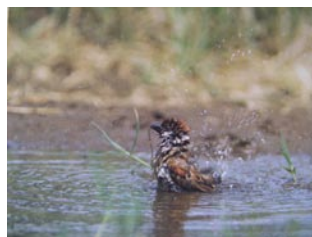
スズメ

毎月の柳瀬川ウオッチングでも「なんだ、スズメか」といいわれなき差別を受けているスズメです。しかし実は、カワラヒワやホオジロ、オオジュリンの仲間などパッと見た目スズメに似ている鳥は結構多いのです。スズメをしっかり識別できれば、スズメとは違う鳥に遭遇できる（気付く）チャンスも増えるというキーになる野鳥なのです。

さっき見た鳥は何だったのか、その確認をベテランに聞く場合でも、「スズメと同じくらいの大きさで、羽に黄色が見えた」などと具体的に質問すれば、その正体が判明する確率も増えます。

スズメの仲間は世界中にいますが、日本にいるスズメは、全長約14cmで、スズメ目ハタオリドリ科に属します。特徴は、チョコレート色の帽子を目深にかぶり、ほっぺに黒い斑点があり、黒いよだれかけをしています。市街地から山地にかけて人家のあるところに多く棲息するのはご存じのとおりです。

毎月の柳瀬川・野鳥ウオッチング時に数を調べていますが、群れに出会ったときと出会えなかったときでムラがあるためあまり正確なデー



スズメの砂浴び（左）と砂浴び
（しぜんのくに『すずめ』鈴木出版より
・写真＝毛利ほか）

タとはいえませんが、冬季と繁殖を終えた秋に多くなり、100～200羽いることもあります。

スズメは大変身近な野鳥なのでじっくり観察してみると意外に面白い発見があります。

例えば、鳥類は健康を保つためによく水浴びをするのですが、スズメは砂浴びも頻繁に行います。校庭の乾いた土の上やベランダの植木鉢で観察することもあり、なかなか可愛いですよ。

また、スズメは住宅の隙間やイワツバメの巣などを横取りしたりして巣を作ります。そのとき、かなりの確率で目印（？）になる枯れ草などを垂らしていることがあります。一見抜け目がないように思えるスズメですが、こんな性格が個人的には好きです。

編集後記

◇暑い日々もやっと少し落ち着いてくる兆しが…、皆様いかがお過ごしですか。

◇今までご好評頂きました、尾崎征男さんのコラム「くらしと言葉」は、本誌45号の掲載をもって終了致しました。41回の長きに渡って楽しませていただきました。「今回『くらしと言葉』は？」という問合せも頂きましたので、改めてこの場を借りてご報告致します。尾崎さん、ありがとうございました。（ふくろう）

● エコシティ志木通信
● 第47号・2007年9月1日
● 発行

● **NPO法人エコシティ志木**

● 〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

● 電話/FAX 048-471-1338（天田真）

● URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

● E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています